

文化財の価値（たたき台）（保存活用計画第 1 章記載）

1. 国登録有形文化財意見具申所見の記述（抜粋）

赤星鉄馬邸はアントニン・レーモンドが戦前に設計した RC 打ち放しの大規模住宅で、現存する唯一のものである。自邸で試行していた RC 打ち放しの可能性を追求する近代国際様式（インターナショナルスタイル）から日本建築に影響を受け自然環境との融合をめざした初期モダニズムの代表的な住宅である。設計において重要であった前庭も現存しており、住宅建築では失われることが多いノエミ夫人の造作が良好に遺存している点も特筆される。このため、登録有形文化財基準の「造形の規範となっているもの」に該当するものと考えられる。

2. 旧赤星鉄馬邸の価値 ※議論のためのたたき台

○戦前のレーモンド作品が残存している価値

- ・モダニズム建築から日本の建築様式との融合が図られた初期モダニズム建築
- ・世界でも先端の曲面打放しコンクリート仕上げを試みた建築である。
- ・建築のみならず、ノエミ・レーモンドが担当した造作家具が状態よく残っている。
- ・組織的な設計事務所として前川國男など優れた所員が在籍しており、なかでもナンバーワンの弟子といわれた杉山雅則が担当した。

○良質な環境が残され体験できる価値

- ・レーモンドが日本に持ち込んだ中と外の連続性、半屋外空間が体现されている建築である。
- ・戦火を免れ公園空白地域にある貴重なオープンスペースとして庭園の大部分が残されている。
- ・修道女会が暮らしの中で大切にメンテナンスを行い、建物・庭とも概ね健全な状態で現存している。
- ・閉じたプライベート空間ではあるが、現在では宅地化され面影のない明治末期頃の郊外型別荘地として発展した吉祥寺地域における敷地規模（スケール）が、残されている。

○本市（多摩地域も含めるか？）の歴史における価値（作成中）

○その他

- ・居住空間として限られた者のみ利用してきた閉鎖的な環境は、旧赤星邸の特性である。
- ・時代ごとに住み手が変わり、都度その生活に適した修繕等利用の歴史が蓄積されている。
- ・大規模な建物と庭園を広く開放し、市民の様々な活動や憩いの場とすることができる。